



彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク  
**あったかウエルねっとニュース 第24号**

2017年2月7日発行

ホームページアドレス <http://www.geocities.jp/attaka17/>

2011年3月11日の東日本大震災より6年が経とうとしています。失われた多くの尊い命のご冥福を祈り続けるとともに、一日も早い被災地の復興・復旧を願い、被災された皆様の安心安全を心よりお祈り申し上げます。

あったかウエルねっとの「ウエル(WELL)」は、Welfare(福祉)、Well-Being(幸福)のWell(大切にという意味)で、「温かな心で一人ひとりを大切に思うつながり」でありたい、との願いが込められています。

## あいさつ

### 地域包括ケアシステムと福祉教育

あったかウエルねっと代表 横田八枝子  
 (坂戸市・第1期推進員)

2017年の立春を迎え、自然の恩恵に感謝しながら、地域で誰もが排除されることなく「共に健やかに幸せに暮らせる社会」を願い、あったかウエルねっと16年目も始動しております。本年もご助言ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

さて、ご承知のように、日本は今、少子化と団塊世代が後期高齢者のピークになる2025年までに「地域包括ケアシステム」を構築することが地域課題の状況下で、これまで以上に多種多様な機関や人々の連携が求められています。0歳から100歳(生涯)の一人一人が幸せに暮らすために必要な、地域支え合いの土壌です。

その中で「福祉教育・ボランティア学習」を推進する意義と役割は大きく、これからの実践に託されています。

これまでの活動でも、「人と人とが関わりあう中で、互いに影響しあって変容していく営み」、「自分の良い(得意な)ところに気づく営み」、「誰もが誰かの力になれる営み」、「人間が幸せだと感じる営

み」のこと等々、福祉教育・ボランティア学習を通して沢山の学びあいがありました。

けれども、福祉課題の複雑化が進む中で「福祉教育」の推進・啓発が薄れている現状を感じます。

そこで、あったかウエルねっとは、知恵を出し合い、2025年に向けて、関連する団体や関心のある人たちに呼びかけ、課題を分析しながら学び合い、誰もが「普段の暮らしの幸せ」を享受する共生社会への実践力を培っていく時期と捉えています。

昨年からは、埼玉発！若者への福祉教育研究会との連携も始まっています。予測が難しい社会状況ですが、「福祉教育・ボランティア学習」の推進から「地域包括ケアシステム」構築へと繋げていきますよう、あったかウエルねっとの学びの輪が広がることを念じております。どうぞ、皆様のご理解とご支援をお願いいたします。

## 予告

詳細は次号で。

### 平成29年度 研修会の予定

日時 平成29年5月13日(土)

場所 彩の国すこやかプラザ2階ホール

講師 河村美穂氏(埼玉大学教授)

ご予約に入れていただけますようお願いいたします。

## 報告いろいろ

平成28年度も残すところ2か月、若者への福祉教育研究会とのコラボ企画も含め、活発な活動内容となりました。秋以降の活動をご報告します。

## 報告1 ねっと秋カフェ

**若福研とコラボで学ぼう！**  
**サービスラーニングと福祉教育～**  
**「地域」から体験的に学ぶ～**

日時：平成28年11月11日（金）13：30～15：45  
 場所：坂戸駅前集会施設 集会室  
 坂戸・鶴ヶ島・川越・毛呂山・嵐山・吉見・加須・さいたま市等から、ベビー同伴のママ～高齢者まで多彩な顔ぶれの参加者22名が集まりました。



<パネルディスカッション>

パネラー

- 横田八枝子（ねっと代表・若福研会長）
- 牧野郁子（若福研事務局長）
- 須田正子（ねっと事務局長/第3期推進員）

これまで学んできた「社会的有用感／自己肯定感・共生的人間観（「共に生きる力」）・自己の成長と社会とのつながり・社会に貢献する活動」について、原田正樹先生・村上徹也先生のレジュメを使わせていただき、参加者とパネラーがディスカッションしながら学びを深めました。

## 報告2 ねっと冬カフェ1

**共に豊かに生きる力を育もう！**  
**～今こそ知りたい！サービスラーニング～**

日時：平成29年1月15日（日）13：00～15：30  
 場所：ウエスタ川越 2階 活動室5  
 講師&コメンテーター：村上 徹也 氏  
 （市民社会コンサルタント・日本福祉大学教授）

ミニ鼎談<sup>ていだん</sup>：牧野郁子（第2期推進員・鶴ヶ島市）、

大島隆代氏（浦和大学講師）、横田八枝子（代表）  
 円卓会議では、小論文記入での振り返りを含めて、和気藹々と参加者24名の福祉教育への熱い想いが語られました。

村上先生からは分かり易く丁寧な講義に続き、ミニ鼎談や円卓会議でも温かなコメントをいただき、沢山の学びがあった冬カフェでした。

学びをまとめてみますと、

◆サービスラーニングは、自分が学んだ知識や技術を活かして活動する≠社会に貢献する活動から学ぶ。その相乗効果が学習効果を高める。

《座学と社会に役立つ体験を結びつけた学習の効果が立証されている》

◆サービスラーニングの8つの大切な要件

- 1.地域のニーズの把握《擬似でない本物》
- 2.学習目標の設定
- 3.若者自身の声と計画づくり《学習者の意志》
- 4.オリエンテーションと研修
- 5.意義ある活動の保障《本当に地域で役立つ活動をする》
- 6.振り返り《何を学べたのか》≠場面毎に振り返る
- 7.評価《活動を通して何を学んだのか》
- 8.祝福と認知《活動に意義のあることを伝えて褒める》

「講師コメント」  
より

◇学校に行けない子供・若者(弱さを持った人)たちと福祉教育を！

◇今までどおり、みんなで福祉教育を学ぶ中で、サービスラーニング（社会貢献活動）の視点を！  
 ◇福祉教育＝学校ではない。自分の生活・人生の中で福祉教育を！

「学校での福祉教育は、子供・若者の学習を地域で支えること」「地域での福祉教育は、地域に子供・若者を巻き込んでいくこと」などが確認できました。その前提は、「家庭での福祉教育」で



↑ 円卓会議を模して  
全員参加の意見交換！

すが、家庭機能の脆弱化している状況下では、「地域」の役割が大きいと強く思いました。

### 報告3 上尾市教育委員会より依頼

#### 人権教育研修会で講師をしました。

毛呂山町・第2期推進員 木野登紀子

上尾市立人権教育集会所人権問題指導者研修会が、昨年11月30日（上尾市原市集会所）、12月7日（上尾市畔吉集会所）に行なわれました。それぞれ1日2回の実施で、日頃集会所を利用している地域の方々が各回30～40人程度参加され、1日目は吉田より子（第5期推進員）&盲導犬ラッキーが、2日目は木野登紀子が担当しました。

地域の方に様々な人権問題についての理解と認識を深め人権意識の高揚を図るとともに、人権問題を自身の問題として捉え「偏見を持たない、差別をしない、差別をさせない」実践力を身に着け、地域の核となる人材育成のための研修会とのこと。障がいをもつ人の人権問題をテーマとした啓発ビデオの視聴のあとの1時間で、障がいをもつ人の思いや願いを伝えると、流石「生涯教育」に関わる皆さん、講話に対する反応も素早く、元気はつらつ笑顔の絶えないあつという間の1時間でした。終了後、声をかけてくれた方の中に85歳の踊りの先生とその生徒3人、弱視の生徒を持つ校長先生等々。みんな、人権について真剣に向かい合っていました。

## 冬カフェ2のお知らせ

誰でもカフェ in 大学  
あったか福祉交流サロン

～ふだんのくらしのしあわせを考えよう～

日時 平成29年2月28日(火)  
13:00～15:00

会場 聖学院大学4号館4階 4402教室

参加費 200円(茶菓子代)

※学生には参加費の補助(200円)あり。

事前の申込み  
をお願いします

ゲストスピーカー

中島 満氏 (東松山市在住 車イスユーザー)

櫻井栄里氏 (東松山市在住 発達障害)

今井光子氏 (熊谷市在住 視覚障害)

吉田より子氏&ラッキー (嵐山町在住

視覚障害・盲導犬ユーザー)

障害ってなに？

生活について、自分で出来ること、手助けが必要なこといろいろな立場からのお話を聞いてみよう。

申し込み先

あったかウエルねっと事務局 (須田正子)

FAX 049-283-1865 メール masako@niconico39.net

## 若福研究会コーナー

昨年8月に設立した若者への福祉教育研究会ですが、現在、6つのプロジェクト(高校、大学、地域あったかウエルねっと、地域ワークキャンプ、精神保健、権利擁護)が始動。共通プログラムシートを活用するなどの「見える化」、さらにブラッシュアップのための展開をしていきます。

### ☆第2回学習会の報告

10/20(火)13時30分からウエスタ川越にて講師の河村美穂先生(埼玉大学教授)より「福祉教育プログラムの見える化について」講義いただきました。

福祉教育実践研究の定義

- ① 福祉教育実践の概要を多くの方が共有できるよう記述
- ② どのような価値に基づいて研究をすすめるのかを明確に
- ③ なにをどこまで明らかにするのか具体的な目標を設定
- ④ 研究の方法を具体的な手続きとして示す
- ⑤ 研究の成果がこれまでの福祉教育実践研究経緯(流れ)の中に位置づき、さらに自分自身や他者の研究・実践に何らかの示唆を与える

他に、初雁建司氏(東松山市・第5期推進員)からの実践報告もあり、今後に向けての学びが多い学習会でした。

### ☆第2回研究会の報告

【大学実践・サービスマーケティングプログラム】

12/14(水)13時30分からウエスタ川越にて「大学で

のコミュニティ・サービラーニングプログラム」の狙い・内容・特色などの中間報告がありました。

実践報告者：川田虎男氏（聖学院大学）

アドバイザー：河村美穂氏（埼玉大学教授）

### ☆第3回研究会のお知らせ

【地域実践・ワークキャンプ実践プログラム】

報告会：「社協事業の事例より見える化」

日時：2月26日（日） 13:30～16:00

場所：ウェスタ川越研修室2・3

実践報告者：3市町村社協職員（川越・日高・吉川）

アドバイザー：佐藤陽氏（十文字学園大学教授）

### ☆第4回研究会のお知らせ

日時：4月9日（日） 14:00～16:30

場所：東松山市福祉センター

\*助言は原田正樹先生。詳細は次号にて。

\*各申し込み先は事務局須田宛へお願いします。

## 県社協からの情報

県社協では、今年で3年目となる小中学生作文コンクールを実施し、1月12日（木）に県民健康センターで実施した共生・共助つながりづくりシンポジウムにて、最優秀賞及び審査員特別賞を受賞した児童生徒の表彰式を行いました。家族・友達のこと、自治会の活動に参加して気づいた事、命の大切さなど、「人とのつながり・地域での支え合い」に関する子どもたちの様々な思いが詰まった作品4, 148通に触れることができました。

優秀作品については、2月中に本会HPに掲載しますのでぜひご覧ください。

(<http://www.fukushi-saitama.or.jp/site/volunteer/>)

また、1月29日（日）には「ヤングボランティア交流会」を開催し、ボランティア活動に興味のある高校生65人が集いました。企画委員の高校生が当日のプログラムを検討し、午前中には募金活動や福祉施設でのボランティア活動、午後に各校の活動紹介や情報交換を行いました。他校の活動を知る事で、新たな活動のヒントを得て、今後の活動にも活かそうと



す。参加した高校生からは県内に同世代のボランティア仲間がいる事を知り、笑顔が溢れていました。今後も県内の若い世代のボランティア活動を推進していきます。

<今後の予定>

○福祉教育推進者研修を3月に実施します。詳細が決まり次第ご案内します。

## 事務局情報

### メーリングリストで情報を

「あったかウエルねっとML」「若者への福祉教育研究会ML」と、二つのメーリングリストが動いています。会員・賛助会員の方でメールアドレス（携帯も可）をお持ちの場合、メーリングリストの登録ができます。希望する方は事務局までお知らせください。

ねっと事務局 須田 049-283-1865 (FAX)

メールアドレス：masako@niconico39.net

### 会費振込先のお知らせ

活動は、ねっと会費（年1000円）で運営しています。みなさまのご協力をお願いします。

振込先：埼玉りそな銀行武蔵浦和支店・

普通預金口座番号：5015782

名義：彩の国福祉教育ボランティア学習推進員ネットワーク

### 編集後記

15周年記念事業を機に新たな動きや連携が生まれ、第24号は盛り沢山の内容となりました。ご覧いただき、ご意見ご感想等もお寄せください。また、会員皆さまからの情報もお待ちしています。

発行：彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク（通称：あったかウエルねっと）

編集：あったかウエルねっと（情報担当）

連絡先：埼玉県社会福祉協議会地域活動支援課

TEL：048-822-1435

FAX：048-822-3078

Mail：vc@fukushi-saitama.or.jp